令和２年度第２回成田市保健福祉審議会子ども・子育て支援部会
会議結果概要

１　開催日時
令和３年３月２２日（月）１０：００～１１：００

２　開催場所
成田市役所　６階　中会議室

３　出席者
（委員）
青木部会長、髙木委員、高橋委員、根本委員、荒木委員、倉澤委員、
岸本委員
（事務局）
健康こども部：田中部長
子育て支援課：篠塚課長、高仲主幹、根本主査、在田主任主事
保育課：小林課長、宮﨑主幹、久保木係長、柴田係長
健康増進課：門井課長、谷下田主幹
社会福祉課：多田課長

４　議題
（１）小規模保育事業の認可について
（２）利用定員の設定・変更について
（３）子ども・子育て支援に関する現状と取組について

５　配布資料
・資料１　小規模保育事業の認可について
・資料２　利用定員の設定・変更について
・資料３　子ども・子育て支援に関する現状と取組について

６　議事
○議題（１）小規模保育事業の認可について
（「資料１　小規模保育事業の認可について」に基づき事務局から説明。主な質疑応答は、以下のとおり。）

部会長：（仮称）キートスベビーケア公津の杜について、３階に保育室が設けられるようだが、災害時の避難等に関して、どのような対応となって

いるか。

事務局：保育室は、災害避難の観点から、原則として、１階に設置することが望ましいとされているが、２階、３階に設置する場合、上階になるに従い満たすべき基準が厳しくなっている。保育室を３階に設置する場合には、３階から１階へ避難する経路について、建築基準法上の基準を満たした避難階段を２か所以上設けることとなっていることから、当該施設については、屋内階段と屋外階段の２か所の避難階段を設けている。また、調理室において、万が一火事が発生した際に、他の部屋への延焼を防ぐための措置を講じなければならないこととなっている。方法としては、防火区画とするか、基準を満たした自動消火設備を設置することで基準を満たすことができる。当該施設は基準を満たした自動消火設備を設置している。

委　員：両園において駐車場はどのくらい設けているか。

事務局：いずれの園も敷地内に駐車場を複数台分確保している。（仮称）キートスベビーケア公津の杜については、８台程度、（仮称）キートスベビーケア美郷台については、具体的な台数まで決まっていないようだが、１９名定員に対応できる台数分を確保する方向で調整が進んでいるところである。

○議題（２）利用定員の設定・変更について

（「資料２　利用定員の設定・変更について」に基づき事務局から説明。主な質疑応答は、以下のとおり。）

委　員：（仮称）キートスチャイルドケア公津の杜について、園庭の代替として近隣の公園を設定するとのことであるが、園庭のある施設に比べて外遊びの機会が減ってしまうのではないかと思う。０歳児から２歳児であれば代替の公園でも問題ないと考えるが、３歳児から５歳児では運動量も増えるため、十分な外遊びの機会を設けることが難しいと思う。また、保育士からすると子どもを連れて園の外に出ることは、負担になるのではないかと思うが、どのように考えているか。

事務局：当該施設が利用する公園は、比較的近くに位置し、移動ルートも大き

な道路を避けたものとなっており、安全面について配慮がなされている。また、当該事業者は、既に運営しているキートスチャイルドケア美郷台において、外遊びの際は近隣の公園を使用している実績があることから、お子さんの成長に合わせた外遊びの機会を設けていただけるものと考えている。

部会長：数年前に、関西において、散歩中の保育園児の列に車が突っ込むという事故があった。移動時の安全対策の徹底をお願いしたい。

委　員：(仮称)キートスチャイルドケア公津の杜と(仮称)キートスベビーケア公津の杜は、９０名定員の認可保育園と１９名定員の小規模保育事業所が同じ建物に入るものである。議題１で話があったが、８台分の駐車場では不十分であると思われる。

事務局：現状は、敷地内に８台分の駐車スペースがあり、１階のテナントが空いているため、すべて使用可能な状態である。年度初の時点では、認可保育所と小規模保育事業所の入所の状況から、駐車場は８台分で支障がないものと考えている。しかしながら、今後入所児童数が増えた場合には、８台では不足するため、近隣の月極の駐車場を１０台以上確保して対応を図ることとしている。

委　員：働くお母さんは、朝とても忙しい中、子どもの登園のため車で子どもを送りに来る。事故が起きることのないよう十分な駐車場を確保していただきたい。

〇議題（３）子ども・子育て支援に関する現状と取組について

（「資料３　子ども・子育て支援に関する現状と取組について」に基づき事務局から説明。主な質疑応答は、以下のとおり。）

委　員：来年度、空港内の認可外保育施設では０歳児の入園希望者が大幅に減少しており、雇用情勢や在宅勤務の増加などの背景があると感じている。資料３では令和２年４月の０歳児の入所児童数と令和３年２月の０歳児の入所児童数を比較すると増加している。この要因について参考となる情報があればお伺いしたい。

事務局：年度途中にお子様が生まれて預けることを希望する人や、１歳になり、育児休暇から職場復帰するために預けることを希望する方がいる。このことから、例年、０歳児と１歳児については、年度初と比較して年度途中の方が、入所児童数が多い状況である。

委　員：例年、年度途中に同じくらい入所児童数が増えるのか。

事務局：入所児童数の増加数についてはやや増減することがあるが、例年、年度途中に増加する傾向となっている。